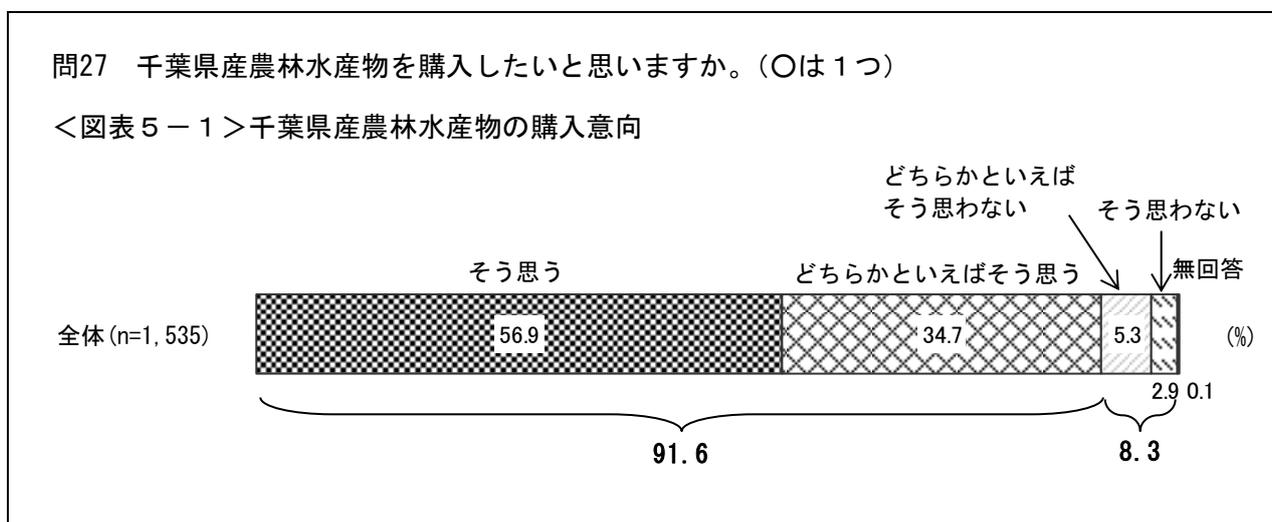


## 5 県の農林水産物について

### （1）千葉県産農林水産物の購入意向

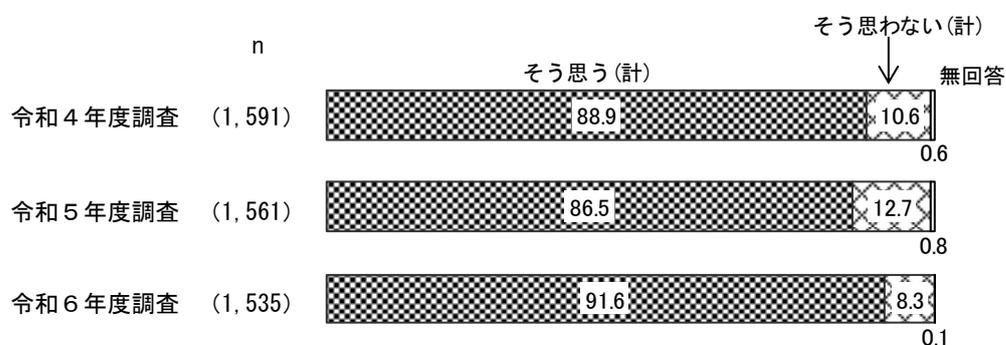
◇『そう思う（計）』が9割を超える



千葉県産農林水産物を購入したいと思いますか聞いたところ、「そう思う」（56.9%）と「どちらかといえばそう思う」（34.7%）を合わせた『そう思う（計）』（91.6%）が9割を超えている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」（5.3%）と「そう思わない」（2.9%）を合わせた『そう思わない（計）』（8.3%）は約1割となっている。（図表5-1）

【参考】令和4年度・5年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



#### 【地域別】

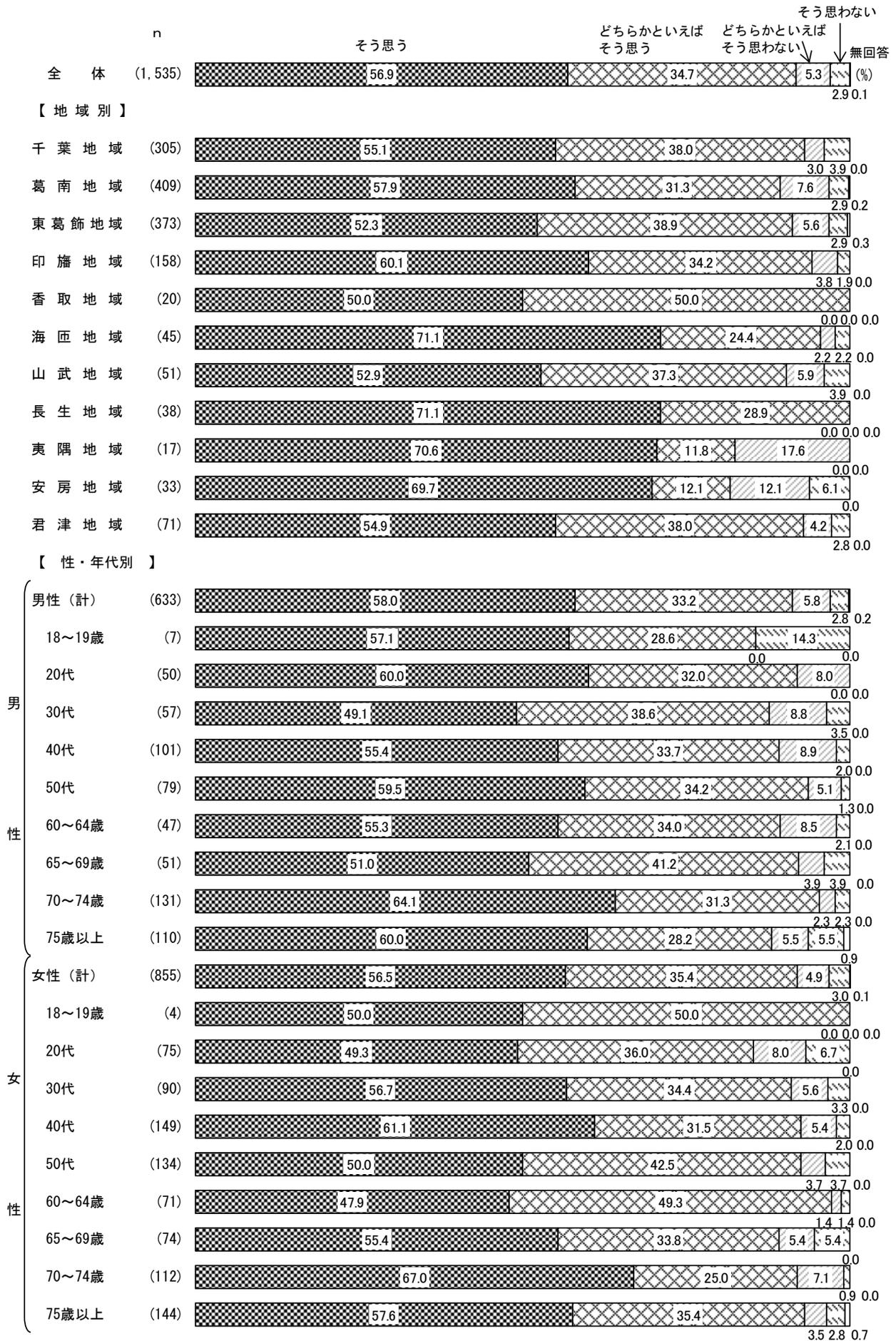
地域別にみると、『そう思わない（計）』は“安房地域”（18.2%）が約2割で高くなっている。

（図表5-2）

#### 【性・年代別】

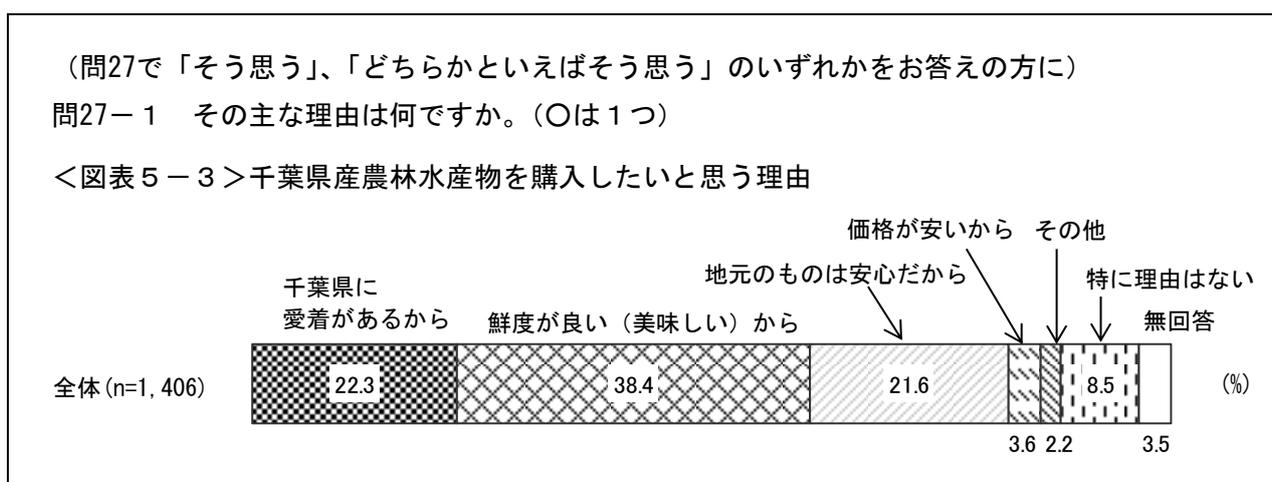
性・年代別にみると、『そう思わない（計）』は女性の20代（14.7%）が1割台半ばで高くなっている。（図表5-2）

<図表5-2>千葉県産農林水産物の購入意向／地域別、性・年代別



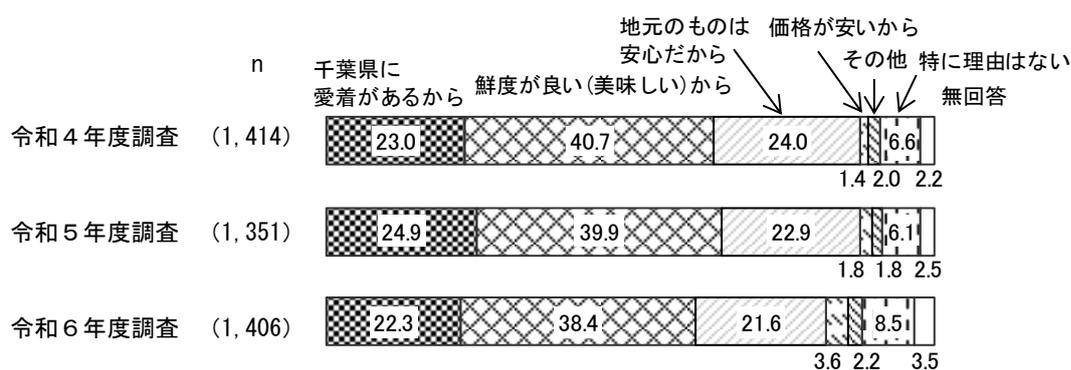
## （1-1）千葉県産農林水産物を購入したいと思う理由

◇「鮮度が良い（美味しい）から」が約4割



千葉県産農林水産物を購入したいと回答した1,406人を対象に、その主な理由を聞いたところ、「鮮度が良い（美味しい）から」（38.4%）が約4割で最も高く、以下、「千葉県に愛着があるから」（22.3%）、「地元のものは安心だから」（21.6%）が続く。（図表5-3）

【参考】令和4年度・5年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



### 【地域別】

地域別にみると、「鮮度が良い（美味しい）から」は“長生地域”（55.3%）が5割台半ばで高くなっている。

「千葉県に愛着があるから」は“千葉地域”（26.8%）が2割台半ばで高くなっている。

（図表5-4）

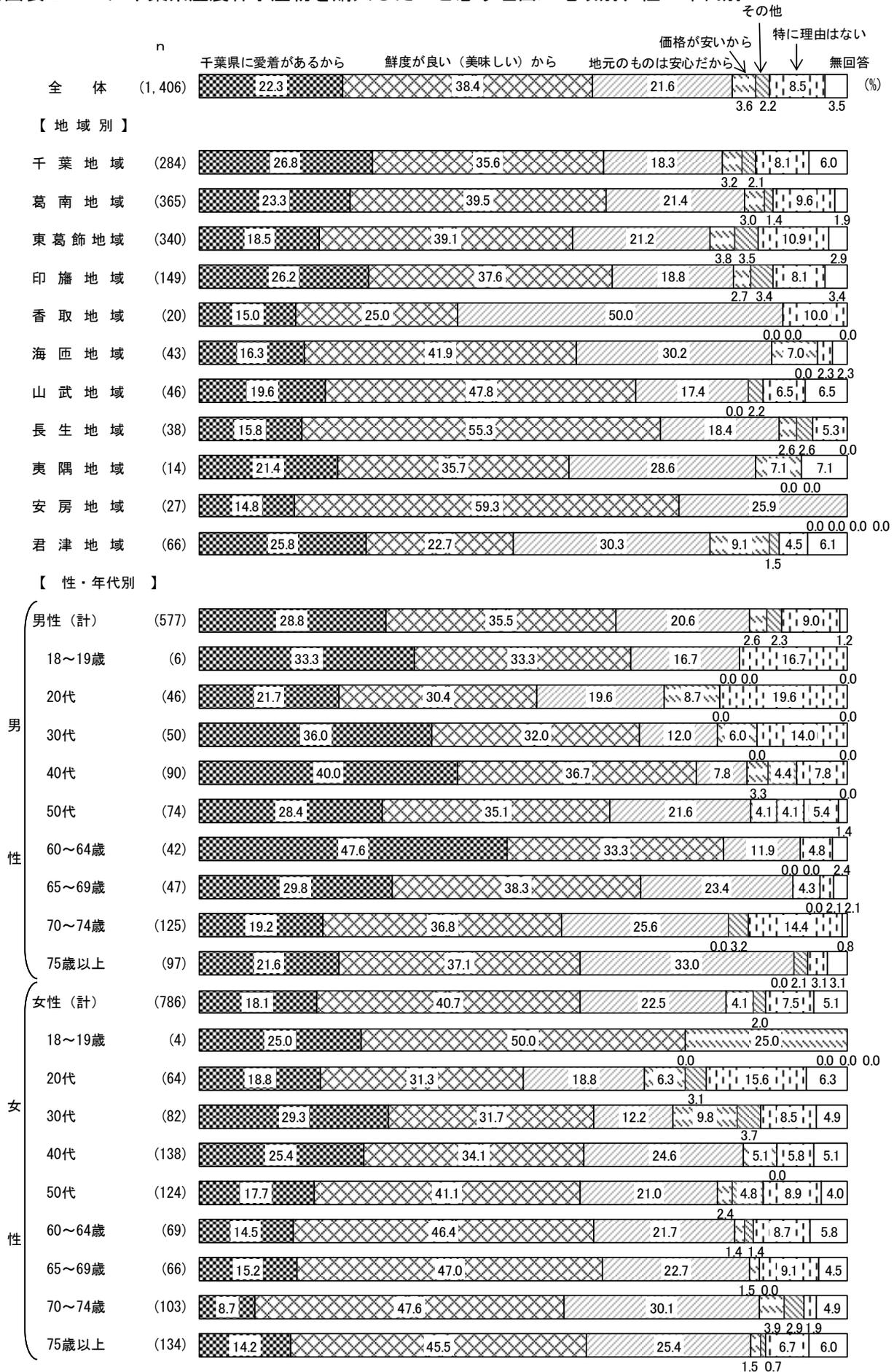
### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「鮮度が良い（美味しい）から」は女性の70～74歳（47.6%）が約5割で高くなっている。

「千葉県に愛着があるから」は男性の60～64歳（47.6%）が約5割、男性の40代（40.0%）が4割、男性の30代（36.0%）が3割台半ばで高くなっている。

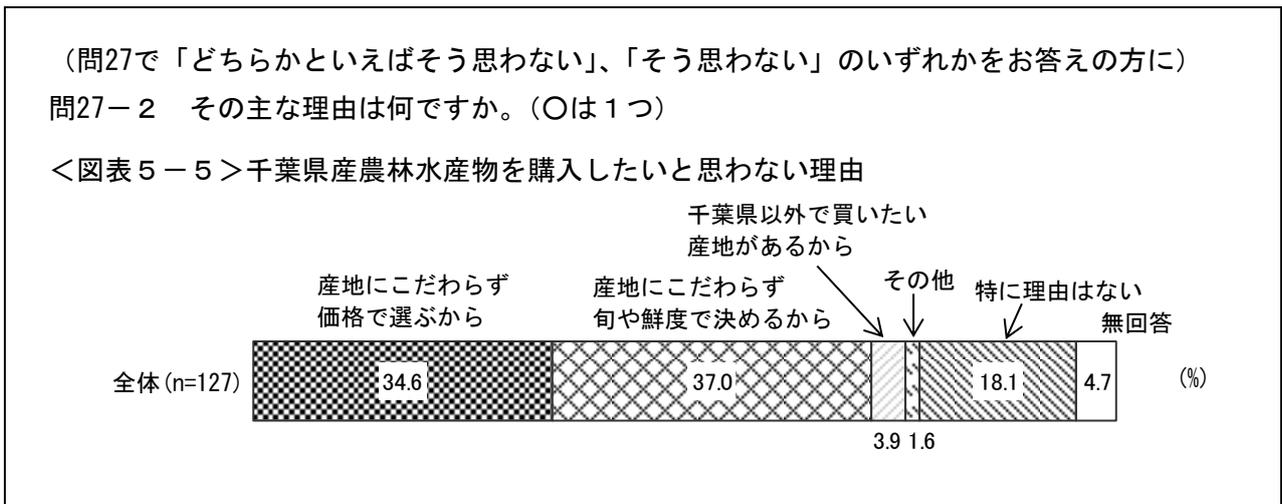
「地元のものは安心だから」は男性の75歳以上（33.0%）が3割を超え、女性の70～74歳（30.1%）が3割で高くなっている。（図表5-4）

＜図表5-4＞千葉県産農林水産物を購入したいと思う理由／地域別、性・年代別



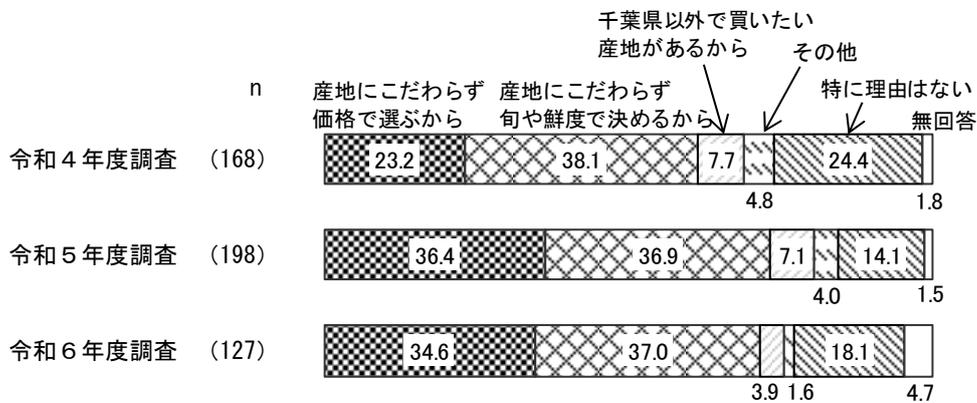
（1-2）千葉県産農林水産物を購入したいと思わない理由

◇「産地にこだわらず旬や鮮度で決めるから」が約4割



千葉県産農林水産物を購入したいと思わないと回答した127人を対象に、その主な理由を聞いたところ、「産地にこだわらず旬や鮮度で決めるから」（37.0%）が約4割で最も高く、以下、「産地にこだわらず価格で選ぶから」（34.6%）、「千葉県以外で買いたい産地があるから」（3.9%）が続く。一方、「特に理由はない」（18.1%）が約2割となっている。（図表5-5）

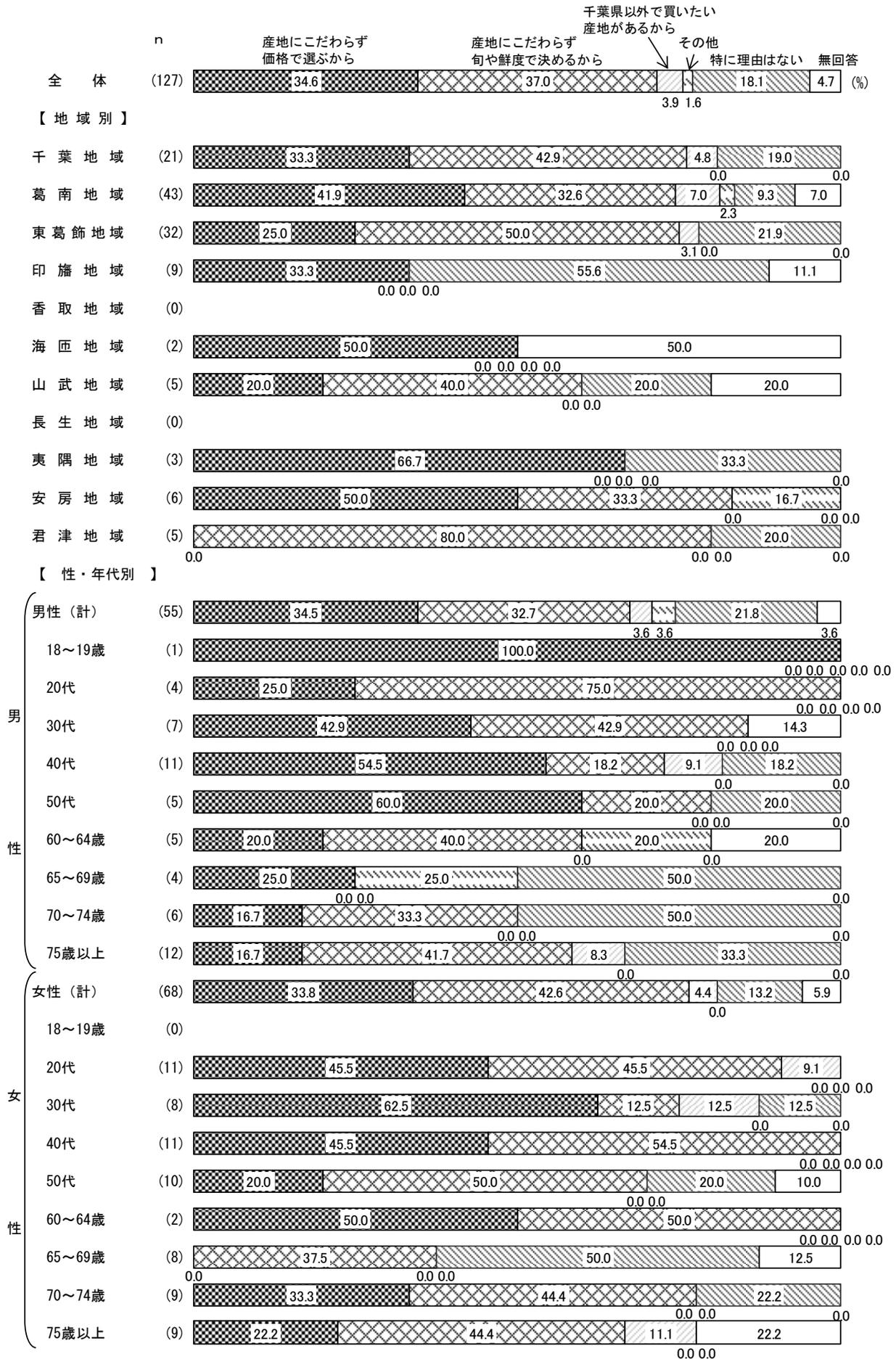
〔参考〕令和4年度・5年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



※サンプル数が少ないため、【地域別】、【性・年代別】は参考までに図示するにとどめる。

（8ページ「報告書の見方（5）」を参照）（図表5-6）

[参考] <図表5-6> 千葉県産農林水産物を購入したいと思わない理由／地域別、性・年代別



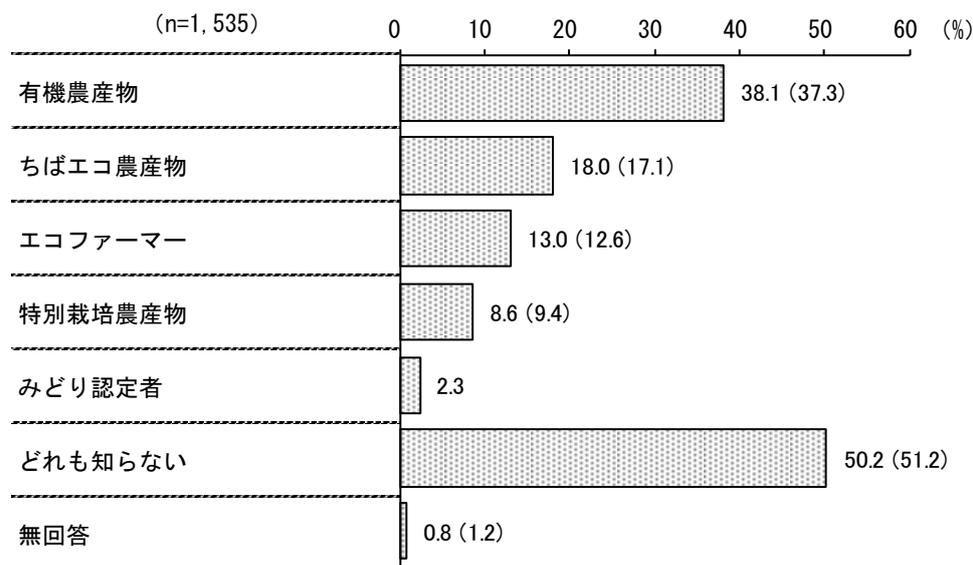
## （2）環境にやさしい農産物や制度の認知度

◇「有機農産物」が約4割

問28 千葉県では、農薬や化学肥料をできるだけ減らすなど、「環境にやさしい農業に取り組む農業者」や「環境にやさしい農産物」についての認証制度を設けています。次の農産物や制度を知っていますか。（○はいくつでも）

- ※「有機農産物」：「有機農産物の日本農林規格」に基づき生産された農産物。化学肥料・化学合成農薬を使用しないこと、遺伝子組換え技術を利用しないことなどを基本として生産されたことを国の登録認証機関が認証する
- 「ちばエコ農産物」：県の基準に基づき化学肥料・化学合成農薬の使用を通常の5割以下で栽培し、県が認証した農産物
- 「エコファーマー」：「持続性の高い農業生産方式の導入の促進に関する法律」に基づき、たい肥等による土づくり、化学肥料・化学合成農薬の使用低減技術に取り組む栽培計画を立て、県が認定した農業者
- 「特別栽培農産物」：国のガイドラインに基づき化学肥料・化学合成農薬の使用を通常の5割以下に減らして栽培し、生産者が定める責任者が確認した農産物
- 「みどり認定者」：「環境と調和のとれた食料システムの環境負荷低減事業活動の促進等に関する法律」に基づき、土づくり、化学肥料・化学合成農薬の使用低減など、農業に由来する環境負荷の低減を図るための実施計画を立て、これを県が認定した農業者

<図表5-7>環境にやさしい農産物や制度の認知度（複数回答）



注) ( ) の数字は令和5年度の同様の項目による調査結果 n=1,561

農薬や化学肥料の使用量の低減などに取り組む農業者・農産物や認証する制度を聞いたことがあるか聞いたところ、「有機農産物」(38.1%)が約4割で最も高く、以下、「ちばエコ農産物」(18.0%)、「エコファーマー」(13.0%)、「特別栽培農産物」(8.6%)が続く。(図表5-7)

### 【地域別】

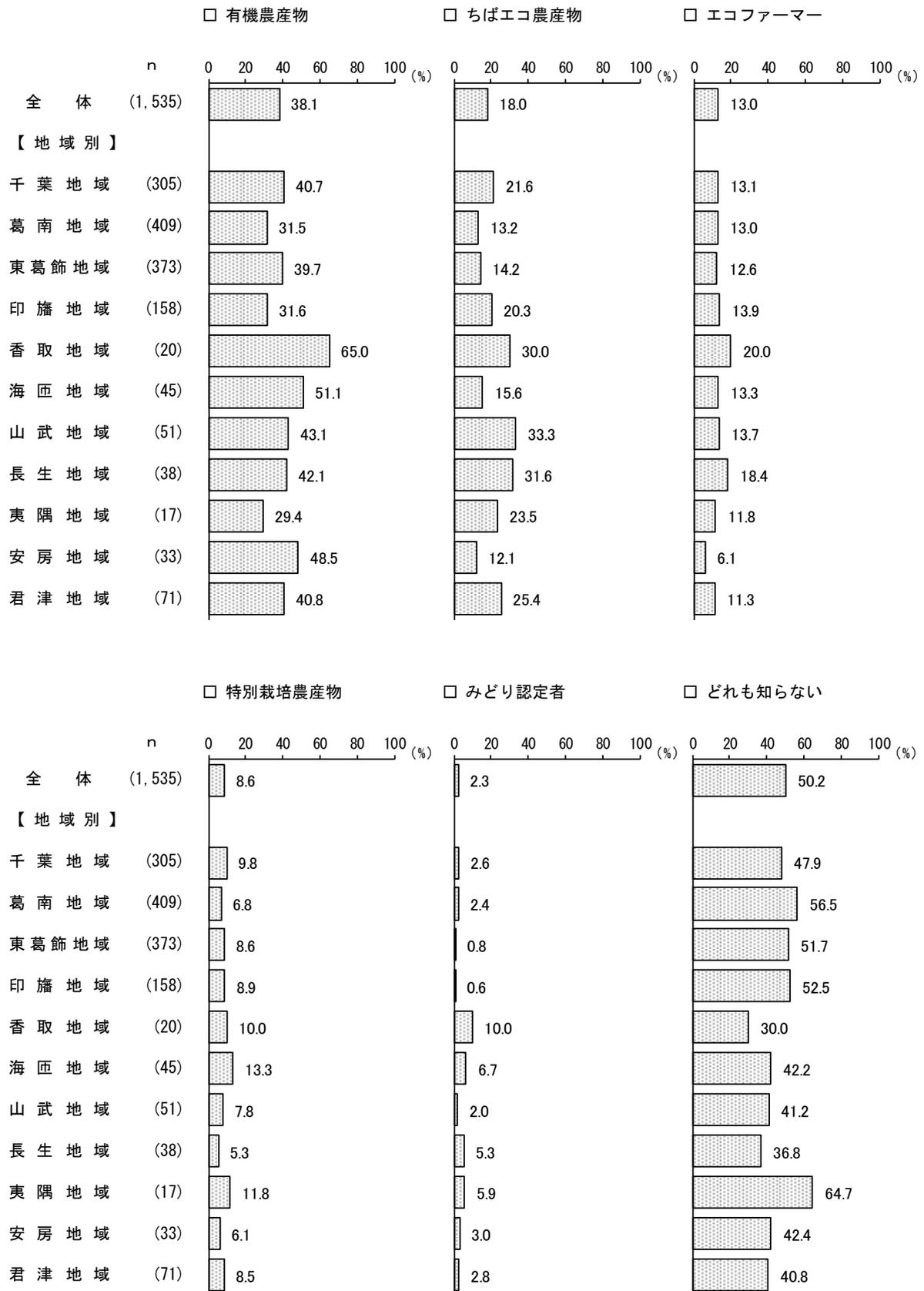
地域別にみると、「ちばエコ農産物」は“山武地域”(33.3%)と“長生地域”(31.6%)が3割を超えて高くなっている。(図表5-8)

### 【性・年代別】

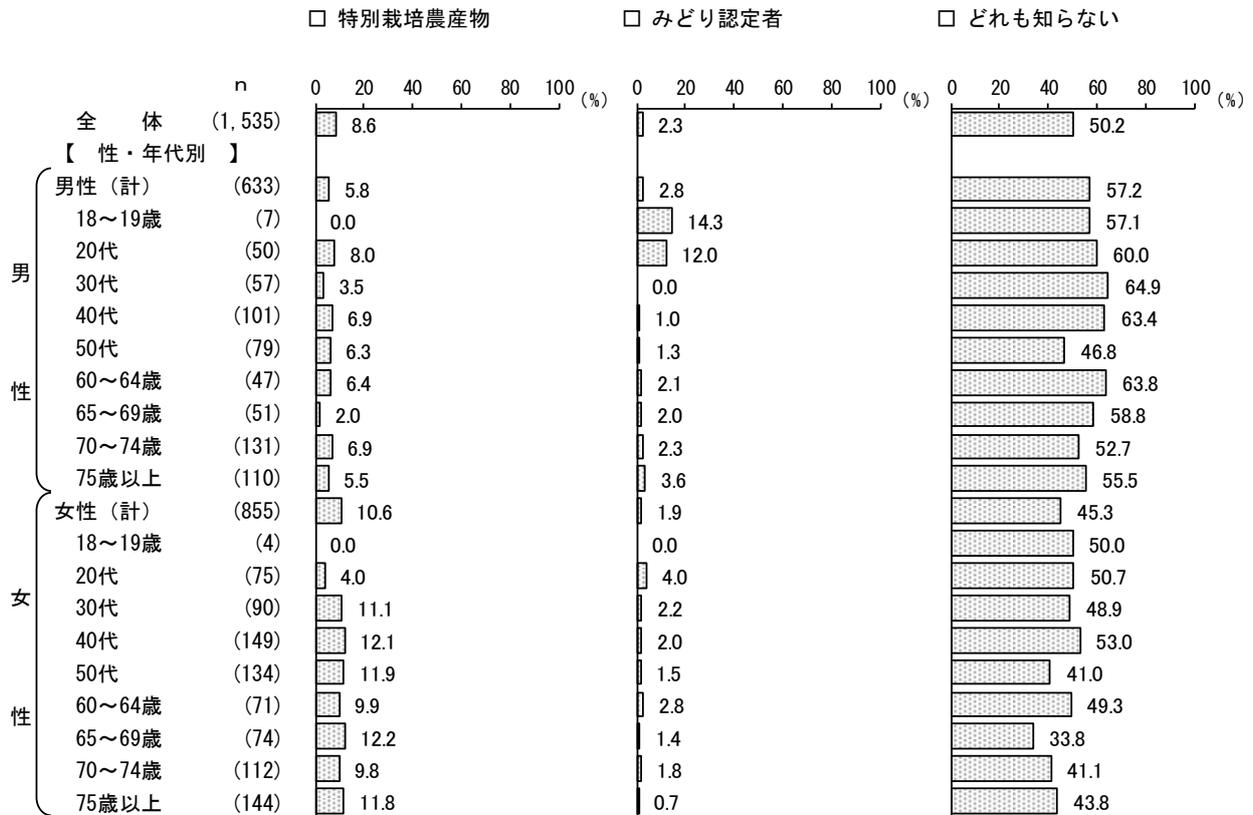
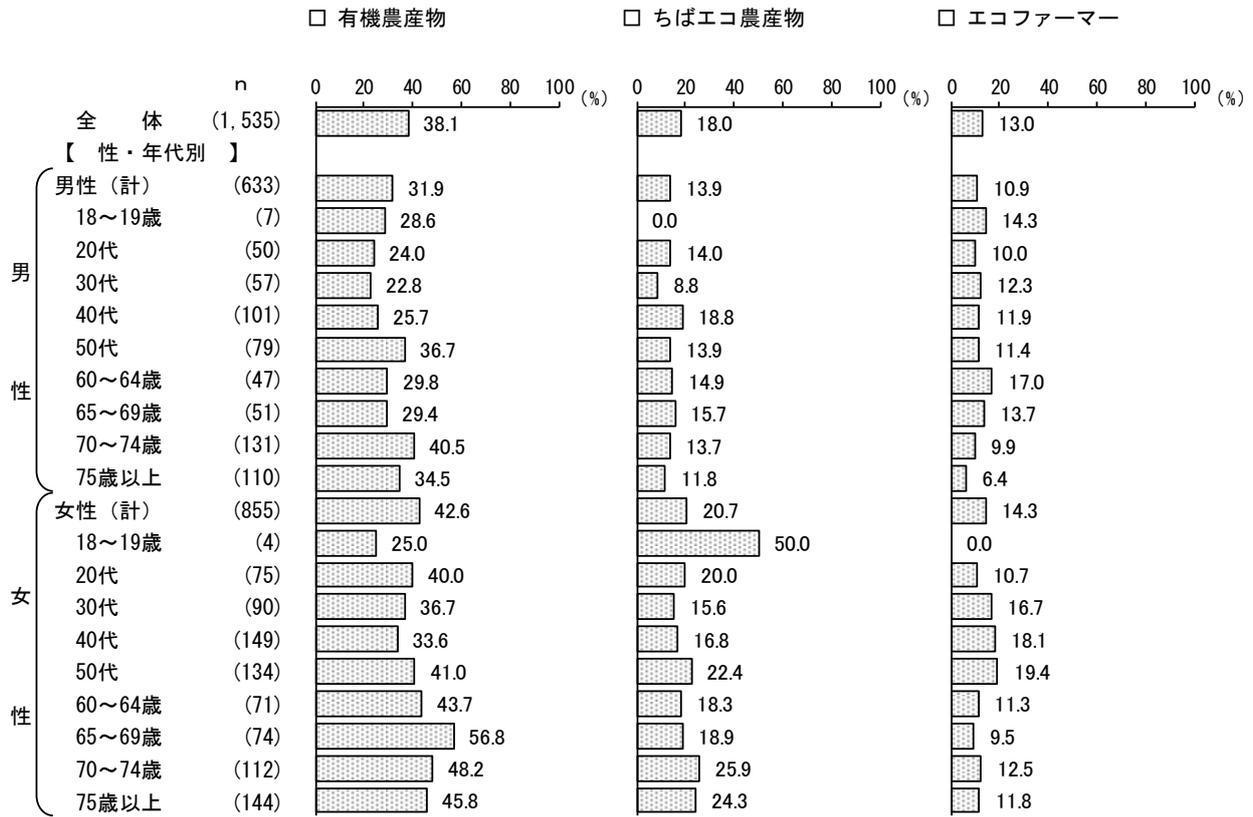
性・年代別にみると、「有機農産物」は女性の65～69歳(56.8%)が5割台半ば、女性の70～74歳(48.2%)が約5割、女性の75歳以上(45.8%)が4割台半ばで高くなっている。

「ちばエコ農産物」は女性の70～74歳（25.9%）と女性の75歳以上（24.3%）が2割台半ばで高くなっている。（図表5－8）

＜図表5－8＞環境にやさしい農産物や制度の認知度（複数回答）／地域別、性・年代別

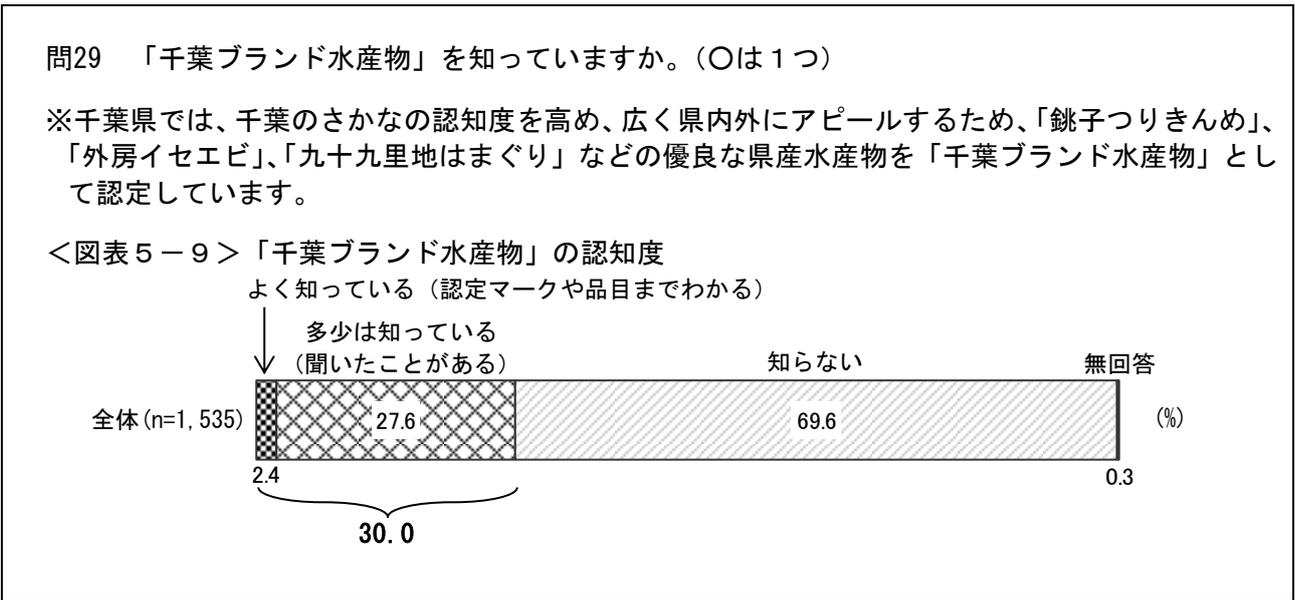


第67回県政に関する世論調査（R6年度）



### （3）「千葉ブランド水産物」の認知度

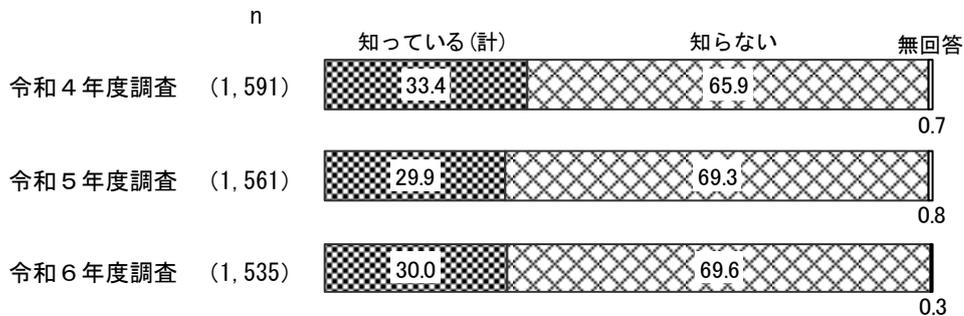
◇『知っている（計）』が3割



「千葉ブランド水産物」を知っているか聞いたところ、「よく知っている（認定マークや品目までわかる）」（2.4%）と「多少は知っている（聞いたことがある）」（27.6%）を合わせた『知っている（計）』（30.0%）が3割となっている。

一方、「知らない」（69.6%）が約7割となっている。（図表5-9）

【参考】令和4年度・5年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



#### 【地域別】

地域別にみると、『知っている（計）』は“海匝地域”（46.7%）と“長生地域”（44.7%）が4割台半ば、“千葉地域”（36.7%）が3割台半ばで高くなっている。

一方、「知らない」は“東葛飾地域”（77.5%）が約8割、“葛南地域”（74.8%）が7割台半ばで高くなっている。（図表5-10）

#### 【性・年代別】

性・年代別にみると、『知っている（計）』は女性の75歳以上（45.1%）が4割台半ばで高くなっている。

一方、「知らない」は女性の40代（79.9%）が約8割で高くなっている。（図表5-10）

＜図表5-10＞「千葉ブランド水産物」の認知度／地域別、性・年代別

